

美しい山形・最上川フォーラム

村山地域事業 最上川のすべてを語り合う会

日時:平成19年3月10日(土)～11日(日)

場所:村山市 クアハウス基点

■ 実施内容 ■

1. 最上川三難所下り 3月10日(土) 14:00～
2. 講演「最上川の散乱ゴミと海洋環境について」 3月10日(土) 15:30～
NPO 法人パートナーシップオフィス 理事 金子 博氏
3. 分科会 3月10日(土) 18:30～
Aグループ 清流・環境
Bグループ 文化・経済
4. 全体会 3月11日(日) 9:00～

■ 概要 ■

1. 最上川三難所下り

今年の冬は雪が少なく、河岸にほとんど着雪がみられなかった。その為、例年は雪に隠れて見えないものと思われる、川の兩岸の木々に無数のゴミが短冊状にぶら下がっている様子を目の当たりにし、一同愕然とした。ゴミはそのほとんどがビニールのもので、上流で個人により捨てられたものや、農業用の肥料袋などが多く見られ、最上川の散乱ゴミの現状について、認識を新たにした。船頭さんのお話や歌もあり、暖かい船内は快適だった。



最上川三難所下り船内の様子

2. 講演「最上川の散乱ゴミと海洋環境について」

①海洋(海岸漂着)ゴミの実情

○日本へのゴミ

- ・中国・韓国・朝鮮からのゴミは、対馬海流に乗って日本海側へ流れてくる。
- ・対馬のゴミはひどい→結果として、北九州沿岸へのゴミの漂着は比較的少ない。

○日本からのゴミ

- ・赤道付近に溜まっている→ミッドウェイ諸島のアホウドリの雛は、親鳥がえさと間違えて与えたゴミにより、その他の栄養を吸収できず、餓死するなどして、10%ほどが巣立つことができない、という報告がある。

②クリーンアップキャンペーン

- ・集めたゴミを本土へ運ぶのに10万円位必要である。自治体で処分するのは費用的に厳しい。
- ・JEAN(日本のNPO団体)とそのカウンターパートの韓国のNPOの協力によるクリーンアップキャンペーンが行われた。

③最上川フォーラムに期待すること(役割)

- ・海のゴミの6~8割は河川から流れてくる生活ゴミである。
- ・フォーラムへは散乱ゴミの発生抑制と回収活動の行動を期待している。
- ・農業県であるからこそそのゴミ(肥料袋)も目立つ。農協とタイアップして回収を呼びかけるなどすれば、成果は出やすいと思われる。
- ・ゴミの出所に対策を講じれば、回収作業にかかる費用の削減にもつながる。



金子 博氏の講演の様子

3. 分科会

[A グループ 清流・環境グループ]

- ・出来ること、やりたいことを話し合いたい。
 - ⇒農業用の袋ゴミの出所に対策を講じたい。
 - ⇒山形県内の山や公園で、ゴミの落ちてないところがある、最上川もそのようにしたい。
- ・個人の活動がなかなか仲間どうしの活動に結びつかない。

⇒楽しみながら、皆で出来る仕組みを考えて、その結果ゴミがなくなるという感覚が良いのではない
か。

- ・マスコミとタイアップや教育の一環として、現場へ行ってゴミを拾うことはどうか。

⇒正しいと評価されると、人も集まるものだ。

⇒フォーラムの名前で表彰するのはどうか。

- ・レジ袋をなくすことと、農協などの組織との連携でゴミを削減していくことは可能である。

⇒最上川河岸のビニールゴミの対策にもなるのではないか。

⇒県内の企業の協力を仰ぐことは有効である。

- ・台所の廃水についても対策を講じたい。

⇒汚れた水＝ゴミを川に流しているという意識が低い。

⇒油は生ゴミへ、とお願いしたい。

- ・アイデア次第で企業の協力を得たり、楽しく実践したりすることが可能になる。

⇒地域のスーパーから始めてもらおう。

⇒市報に掲載してもらうのはどうか。

- ・①台所の油を流さない運動、②レジ袋→マイバッグ運動の2つは具体的に動けるのではないか。

- ・村山以外の最上川流域の地域ともリンクしてやっていたら良い。



清流・環境グループの様子

[Bグループ 文化・経済グループ]



文化・経済グループの様子

※内容は以下の全体会での報告をご参照下さい。

4. 全体会

(1) 清流・環境グループからの報告

- ① レジ袋を削減するための行動
- ② 台所からの油の流出を防ぐ呼びかけ
⇒この2点を具体的に実践していきたい。

(2) 文化・経済グループからの報告

以下の5点について話し合った。

①フォーラムの原点

- ・常に原点へ立ち返るべきだ。
⇒地域の交流による経済活性化が欠かせない。
- ・桜中心になりすぎていないか。
⇒アピールしやすいし、反対者も少ない為、シンボルとして有効である。
⇒守り育てることで輪が広がり交流が生まれる。

②現状：事務局移転に際し、変革期である。

- ・平成19年度は今までの事業をいったんスリム化する年である。
⇒足元を固める期間である。
⇒平成20年以降再び事業を拡大する基盤づくりが必要だ。

③組織の変化

- ・従来の4つのグループが、2つにまとまる。
⇒色々な人がいるが、寛容さを大切にしてまとまり、地域とつながって行く事が重要である。
⇒市町村のリーダーシップに期待したい現状だ。

④課題

a) 桜のメンテナンス

資金を、植えることから、守ることに使ってはどうか。

山形新聞社の桜事業との関係・調整→桜を守るのは同じ住民である。

b)100年間植え続けるのか

c)会員増強の目途

d)『桜物語』の継続について

フォーラムの機関紙として会員をつなぐものであるため、桜以外にも内容を広めるべきである。

e)JTB の賛同を得て支援をいただいている→良好な関係を保つため、「また来たい山形」 を作っていく必要がある。

f)地域組織のメンバーが分からないとの声があるが、個人情報保護のためすべてを発表することは 難しい。この点は事務局に相談して下さい。

⑤展望

地域が集まって活動することで、過疎化や地域崩壊を防ぎたい。

⇒芸術や音楽など、一つずつ加えながら活動を進めては。

⇒全国的なネットワークの中に入ることも有効ではないか。

⇒自ら企画して実行する中に原点とビジョンを持ちたい。



全体会の様子

(3)全体会での意見

- ・フォーラムですべての対策をしようとするのではなく、一部を担い活動していくことが重要だ。
- ・さまざまな活動を広める為に、フォーラムを活用してもらうことが望ましい。
- ・マイバッグを地域から発信すべき。
- ・地域活性化について、自然を残すか、観光経済に力を入れるかという自問自答すべき問題もある。
- ・地域とフォーラムのかかわり方について→身近に捨てられるゴミの問題などで困っている方が多いようである。市町村相談窓口との連携で解決できないか。

- ・アイデアや意見が具体化につながっていないことが、最大の問題である。発足して6年が経過した今、そのもどかしさを感じている方多いのでは。
- ・フォーラムの活動を県民に知ってもらって、フォーラムを活用してもらおう。その為には実行することが必要だ。
- ・事務局の移転をチャンスと捉えよう。
- ・ゴミの不法投棄に対する対策の、実行部隊が必要ではないか。

(4)最上川検定について

- ・3月29日に実行委員を立ち上げる。平成19年秋の試験実施を目指す。県内数箇所を実施し、初年度は検定料を無料とすることを計画している。